

デジタルを
使いこなす
工務店

2

時間に縛られない勤務スタイル

ゼムケンサービス（北九州市、社員数9人）



各社員が手元にiPadなどのタブレット型端末を持ち、クラウドサービスを通じてデータを共有しながらミーティングを実施。互いに同じ情報を見ながら議論できる。社長の藤田さんは、社員が生活と仕事をともに充実できる「ワークライフバランス」が可能な勤務環境の整備をいっそう進め、人材の有効活用を目指している
(写真・資料：ゼムケンサービス)

社内の連絡はSNSを通じて行う。自宅や出張先などからでもアクセスできるので情報を共有しやすい

● 就業サイクルの例

項目	時間	ゼムケンサービスの就業サイクルの例。会話してよい時間を分けて設けることで、作業に集中する時間を確保。朝礼やミーティングの時間には、互いに顔を合わせて仕事への意識の統一を図る
掃除	8:45~9:15	
朝礼	9:15~9:45	
1サイクル目	生産時間	9:45~10:30
	会話時間	10:30~10:45
2サイクル目	生産時間	10:45~11:30
	会話時間	11:30~11:45
ファシリテーション講座	11:45~12:00	
ランチミーティング	12:00~13:00	
3サイクル目	生産時間	13:00~13:45
	会話時間	13:45~14:00
4サイクル目	生産時間	14:00~14:45



住宅・店舗などの設計・施工を手掛けるゼムケンサービスは社員が家事や育児など家庭の時間をおろそかにせず、仕事に従事できる環境づくりに取り組んできた。社長の籠田淳子さん自身が育児しながら仕事に向き合った経験があり、1つの案件に複数の社員がチームで取り組み、互いにカバーし合える体制を築いた。

こうした労働環境の整備で、社員各自の多様な状況に対応した勤務スタイルを実現できている。

一方で限られた業務時間の作業効率を高めるため、就業時間中は社員同士で話し合う「会話時間」を「生産時間」と分けて確保し、作業に集中できる就業サイクルを採用。朝礼やランチミーティングなどの直接対面する時間も設け、コミュニケーションを深める仕組みを盛り込んだ。

同社デザイン企画部の上野暢子さんは、「今後は新たなウェブサービスを活用してインターネット上に各社員のバーチャルオフィスを開設し、よりスムーズなコミュニケーションと情報共有を図る」と話す。

基本方針は、徹底したインターネットの活用で社員が会社に来なくても仕事ができるようにすること。

例えば無料で使えるSNSのフェイスブックを利用した社内連絡の仕組みだ。社員全員が参加する「グループ」をつくり、互いに連絡事項を投稿し合う。インターネットにつながれば、どこからでもグループ上で連絡事項を確認できる。投稿された記事を読んだら「いいね！」をマークするルールをつくり、誰が既読かもすぐに把握できる。

受注案件のデータはインターネット

基本方針は、徹底したインターネットの活用で社員が会社に来なくても仕事ができるようにすること。

例えば無料で使えるSNSのフェイスブックを利用した社内連絡の仕組みだ。社員全員が参加する「グループ」をつくり、互いに連絡事項を投稿し合う。インターネットにつながれば、どこからでもグループ上で連絡事項を確認できる。投稿された記事を読んだら「いいね！」をマークするルールをつくり、誰が既読かもすぐに把握できる。

受注案件のデータはインターネット